

アンケート結果を受けて改善したいところ

「問4 授業で習得したことがらについて、自らの表現で伝えることができる」について、「強く・ややそう思う」が50%程度に留まっている。毎回グループワークの時間を設けているが、必ずしも有効に活用されていない可能性がある。話し合いの形態などをもう少し工夫してみたい。

「問9 教員とのコミュニケーションはうまくとれている」の部分について、「強く・ややそう思う」が40～50%程度に留まっている。60人授業なので1人1人と丁寧に関わることは容易でないが、授業中の指名を増やす、グループワークの際の机間指導を充実させるなどして、さらなる改善を目指したい。

・以前の大学では少人数の専門授業が多かったため、学生の授業への関心や満足度が比較的高かった。

本学の担当科目は教職必修科目であり、専門科目とは異なることを今一度ふまえ、「やらされ感」「義務感」を持たれることのないように、ワークやディスカッションを取り入れ能動・主体的に授業に取り組ませることが望ましいと考えた。

・自由記述で「資料の字が細かかった」「知識を与えるだけでなく、学生同士のやりとりを」と書かれていたことを受け止め、来年度は授業内容を精査し、咀嚼できるように心がけたい。

分かりやすく、聞き取りやすい話し方ができるよう改善したい。

授業とは関係のない雑談については、話す内容について十分気をつけたいと思う。

アンケート結果では、授業の難易度と授業内容の量は、「ちょうどよい」とする回答が8割以上で最も多い。また、この授業で新しい考え方や知識・技能が身についたと回答した受講生が、8割近くに達している。出席状況も9割以上がほとんど出席したと回答している。

全般的にみて、学生の受講態度は良好であると判断されるので、今後も受講生が講義に対して、できるだけ主体的に取り組めるように配慮した授業を展開したいと考えます。

同じ授業にもかかわらず、クラスによってアンケート結果がかなり違っている。

しかし同一のしかも必修科目であるため、クラスによって授業の難度やペースをかえることはできない。項目では「教員とのコミュニケーションはうまくとれている」が、比較的低い数値となった。講義形式の授業ではあるが、改善すべき点だと考えている。

教員とのコミュニケーションが不足しているという意見があったが、E科目では60名、E選では200名の受講生がいるので一方的な講義中心になってしまう。意見などを発表して討議する機会をできるだけ取り入れたいと思う。

質問項目の1や5で新しい考え方や多様な考え方ができたという学生が二つのクラスで「強く」「ややそう思う」含め9割を超えていることは大変うれしい。しかし、もう一つのクラスでは、同項目が7割から8割にとどまっている。そのクラスの他の項目の結果を見ると、授業で提示された文献を参照したり、さらに調べたという項目についても他のクラスに比べて低いことが示された。

大学の講義(15回)だけで、例えば教育方法についてすべての問題を知ることは不可能である。講義内容に触発され、自ら文献に当たり関心を広げていくことが重要になる。上記の結果は、講義内容と授業外での学びをどうつなげることができるか、という課題であり、今後実践課題としていきたい。

このようなアンケートを実施して頂けることで、客観的に自身の授業を見直す機会となり、授業改善に対する意識を高めるきっかけとなります。授業内容の毎年のアップデートはもちろんのこと、「この授業のための週当たりの学習時間」など全体の平均と比べて低い傾向にある項目は今後の課題として改善していきたいと考えております。

個人的に、大学の講義は学生にとってほんの少しだけ高度であると感じられる程度が適切であると考えている。そうすることで、より広く深く学ぶ必要性を感じ、その後の主体的学びにつながっていくと考えられるからである。ただ、そのためには、学生が興味を持てるテーマを精選し、かつ狙った難易度の内容や教材、方法等をとらなければならない、今後も工夫が必要であると考えている。(概ね想定通りのことは出来ているとは思っているが)

また、学生(や教師)に対する期待が強すぎるせいか、高いレベルを求めすぎているのかもしれないといつも反省している。少なくとも、学生達に実力を伴った教師へと成長して欲しいと願っていることを理解してもらえよう努力したい。

毎回のテーマに対するアプローチの幅と深さがありすぎたようであり、受講生からは、まとを絞れないことから、理解しづらい、との意見が出された。したがって、より受講生に受け取りやすいように、提供する内容を減らす工夫をしたいと思っている。また、一部の受講生とのコミュニケーションが大きいとの指摘もあるが、授業内における言葉のやりとりの頻度の問題から、今後は十分留意する所存である。

ほとんどの学生が積極的に授業に参加した。その熱意に、教師の方が助けられたと思っている。まさに授業は学生と教師の相互作用で、質も高まっていくと思う。今後も、できる限り保育現場の最新の情報を用意するとともに、すぐにでも子どもと一緒に遊べ、学びのある教材の紹介ができるように努力していきたい。

・問3の「授業を受けての調査・新たな思考・行動」という項目が一層身に付くような授業のあり方を研究し、授業改善に努めていきたい。
・学生さんの主体的な参加を願って、班での討議や全体での発表・討論を授業に組み込んでいるが、話し合うことの意義や討論の仕方、コメントの力などを練り上げるように努力していきたい。
・中間レポートや講義感想など、学生さんが自ら学んだことを振り返り書き綴ることを重視して位置づけているが、さらに書くことの意味づけや書き方などの工夫をしていきたい。

アンケートからは、問3の発展的な思考の展開およびそれに基づく行動について、必ずしも十分でない回答が寄せられた。このことは前項にも記したが、課題を求める際に、もう一段の工夫や深い思考を促す働きかけを行う必要があると考えている。生活科の課題は、一見単純で活動的に見えるものの、その奥には深い観察や思考、気づきを求めるものが多い。この点についての促しが不足しているように感じられるため、授業中はもとより、課題提示時に配慮したい。

学生は講義を熱心に受けてくれたが、学んだ内容や課題についてさらに追究し深めていけるように、課題提示方法や追究意欲向上策等について考えたいと思う。

・なぜタイムリーな話題に触れるのか、なぜプリントに書き込むのか、理解できていない学生がいたため、説明は何回かする必要があったと思われる。
・講義で提示したパワーポイントの内容が照明の関係や細かすぎる等の理由で分かりにくいところがあったと思うのでもっと分かりやすいものに工夫改善したい。
・授業後の学生とのコンタクトや質疑応答などの時間をもっと多く取れるようにしたい。

授業内容は平易なものにしているため、学生からは難易度や進行はちょうどよいという意見が多かったように思う。一方、授業外に学習した学生が大変少なく、この講義に対する積極性や意欲は低いのかも感じられた。少なくとも、授業時間内は集中して、より積極的に学習に取り組めるようにし、この講義をきっかけに他の心理学の学習への意欲が持てるように工夫をしていきたい。

・新入生である1年前期に「教育原論」という内容を扱うこともあって、「内容が難しい」「ちょうどよい」という感想がほぼ半々にわかれている。内容のレベルを下げるのではなく、より理解しやすい授業展開を効率よく図っていききたい。

・特に、週当たりの自学習時間の水準を上げるためにも、授業復習を積極的に行えるような課題提示を心がけたい。

・1限・2限の授業であっても、ほぼ遅刻者はおらず極めて高い出席率であったことは、受講生の積極的な授業参加と受け止めています。

今回使用した教科書が、全面改定のため来年度は使えないかもしれない。新しい教科書では、改善が必要になるかもしれない。ただ、授業目標をもっと学生に自覚させてもよいのではないかと思っている。また、1限目の特別支援専攻と書道専攻では、専攻のニーズが違うため、本授業が特別支援教育に特化した授業ではないことを学生にもっと広報する必要があると思う。あるいは、クラスを分割する必要がある。対象により、ニーズや教育方法が違ってくるところもあり、受講者の満足度も違う。

概ね肯定的な回答を得ている。気になるのは、問2・問3が「③どちらともいえない」が、40%代が多い。授業形態が、授業の最初に当日の作業内容やその意義を伝え、実習にはいつしてしまうので、自ら資料を検索する機会は少ないからだと思う。今後は、前時の最後に次回の作業内容を伝え、予習させるように改善したい。ただ、今回の体験した栽培活動をもとに、自ら栽培活動を行うときに、検索などはすると思われる。また、問9の学生とのコミュニケーションである。40%弱が、「どちらとも言えない」と回答している。50名をこえる実習であると、なかなか密なコミュニケーションを取るのは、難しい。30名程度が理想である。問14の授業回数で、「多すぎた」が40%弱ある。夏野菜の栽培活動なので、8月後半にも一度実施し17回実施しているためであるが、しかたないことだと思っている。

3クラスのうち2つのクラスで、問3(自分で考え、行動した)の「強くそう思う」の割合が科目平均を下回っていた。学生が自分で考え、行動するような授業に向けてさらに工夫を重ねたい。

問1、問5の回答から授業の内容に関しては全体として理解してもらえていると感じる。しかし、技術的方法としての話し方、コミュニケーションについては少々不足気味であると感じる。このことに関しては、1クラスの受講生が60名近くであることも影響していると思われるものの、授業を通して学生個々の状況を把握するように努めると同時に、内容の把握状況を理解するための方法を検討したいと考えている。特に、質疑に関しては学生自ら発言することが少ないので、コメント用紙に授業内容の質問と同時に感想、要望など学生の考えていることを反映させて授業を展開することが必要と考える。また、授業の中で質問タイムを取るなどの工夫が考えられる。また、授業中の私語など迷惑行為への対応については授業の最初により明確に伝えておき、授業の進行に影響しないようにすることも改めて必要と考える。

今後は、自宅学習を踏まえた講義を展開していきたい。

話しが聞き取りにくいとの指摘があり、マイクを使うことを考えています。

小レポート用紙を返す際に、今後はできるだけコメントを書いて返却するようにしたい。

・途中で1回、私自身が体調を崩して休講にしまったり、昨年どおりには設備を準備できなかったためグループワークの形態を変更したりと、学生を振り回してしまったことを反省している。そのことは様々な点で学生の学習に対する悪影響を与えてしまった。やむを得なかったとはいえ、今後は細心の注意を払いたい。

・講義形式で、こちらから一方的に話す場面が多かった授業では、学生が下を向いたり居眠りしていたりして、うまくいったとは言えなかった。しかしそれらの授業で伝えるべきことが、その後のグループワーク等に生きてきて初めて全体の授業が有意義なものとなるはずであるので、今後は講義形式の部分にもう少し工夫を加えたい。

・質疑応答の時間をより多く持ち、学生とのコミュニケーションを図っていきたい。

問3、問8の③どちらともいえない、をどうとらえるかであるが、少しでも学生にとって意欲的に活動できる内容にし、何が一番効果的で有効な手立てになるかこれからも工夫し考えていきたいと思っている。ただし、問8の板書...については、一限の授業はほぼ教室を使わない(使えない)ので、野外移動黒板等があれば、少しは改善できると考える。

- ・一回当たりの授業内容の量・話すスピードの調整
- ・授業外課題の充実
- ・コメントシートの活用

上記にも書いたように、この授業のための週当たりの学習時間が少なかったことに加え、難易度や授業で扱われる量が多いという結果を踏まえ、もう少し講義外で学習すべき内容を増やして提示していきたいと考えている。ただし、課題だから学習するという受動的な動機づけだけでは本来講義で目指す力は育たないと考えているため、自ら学習したものに対してクラスで取り上げたり、評価することも同時に行い、積極的な学習姿勢を身につけてもらえるよう工夫していきたい。

また、質疑やコメント用紙の活用についても工夫しているが、まだ十分ではないと感じている学生もいるようなので、やりとりが細かくできるようコメント用紙のフィードバックのタイミングなどを検討していきたい。